

胃がんの予防について



徳島大学病院
消化器内科 病棟医長
みやもと ひろし

宮本弘志氏

胃がんの死亡率は
減少傾向にありま

すが、二〇〇九年の死亡数では男女ともに依然として第二位を占めています。胃がんは、喫煙、ピロリ菌感染、塩および塩蔵品の摂取が発症に関与することが確実とされています。一方、野菜や果物の摂取が発症を予防する可能性があるといわれています。また、胃がん検診である胃X線検査の有用性はすでに証明されていますので、胃がんの早期発見のために積極的に検診を受けることが大切です。さらに、精密検査が必要な際には、内視鏡による診断・治療技術がここ数年で格段に進歩してきており、ピロリ菌感染も同時に調べることが出来ますので、ぜひ最寄りの消化器内科を受診されることをお勧めします。



 徳島大学病院がん診療連携センター

お問い合わせ がん診療連携センター：Tel.088-633-7312

徳島がん対策センター

お問い合わせ 相談窓口：Tel.088-633-9438